

港湾振興便り



2015. 1

第93号

* : * :

目 次

* : * :

1 ポートエッセイ —「地方創生」を実現する年に—
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 『ザ・シンポジウムみなと in 札幌』を開催しました！
(ザ・シンポジウムみなと実行委員会)
- 八戸LNGターミナルに外港LNG船が初入港
(東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所)
- 「にいがた港総選挙」が実施されました
(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)
- 職場体験学習を受け入れ～千葉市立生浜中学校の生徒が来所～
(関東地方整備局 千葉港湾事務所)
- 「ふくやま港まつり2014」に気球空撮システムを出展
(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

3 お知らせ

* : * :

1 ポートエッセイ —「地方創生」を実現する年に—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

* : *

皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年も皆さんと共に港湾から地域の元気を引き出すよう努めていきますので、よろしく願いいたします。

今年の最大のテーマは「地方創生」であり、それを表舞台に押し出したのは人口問題であることに對し、あまり異論がないのではないか。

人口問題をご承知の通り「超高齢社会」と「超少子化」、それに首都圏など大都市圏への「人口集中」という3つの要素から成っている。3要素に迅速、かつ的確に対応する必要がある。

超高齢社会に対応するためには健康寿命の延伸を図ると共に、身近な地域で医療・看護・介護が受けられる新しい地域の支えあいの仕組み「地域包括ケアシステム」を構築することが欠かせない。私の地元の新潟市では今年度を「地域包括ケアシステム構築元年」と名付けて、昨年からの地域コミュニティ協議会や自治会、NPO団体、企業などからお年寄りの生活支援にモデル的に取り組んでもらっている。介護保険制度の「要支援」を市町村が実施する方向への備えは待たない。

超少子化への対応は従来延長線を越える発想で取り組む必要がある。これまでの子ども子育て支援策は、大都市圏で問題になっている「待機児童」の解決に偏りすぎていた。新潟市は政令市で唯一「待機児童ゼロ」を続けており、地方都市の多くがこの問題をクリアしている。

今後はより総合的な少子化対策を打ち出すことが求められる。まずは結婚を望む方が結婚できるような支援だ。そして、望まれるだけのお子さまを安心して産み育てられるようにすること。さらに地方ではまだまだ出産によって退職する方が多いので、その方たちが早期に社会復帰できる支援も重要だ。

そして、合計特殊出生率が極めて低い大都市圏への若者集中の流れを早期に変えないと「日本消滅」のシナリオが現実味を帯びてくる。

これに対応しようと安倍政権は昨年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を成立させ、総選挙後の年末に首都圏への流入を抑え、地方への人口の新たな流れを創り出す「長期ビジョン」について数値目標を入れて打ち出し、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と併せて閣議決定した。

その財源の裏打ちとなる今年度補正予算は3兆円台とちょっと小粒だが、地方創生先行枠も設定された。新潟市ではこれを受けて「新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」を仕事始めの5日に設置、初会合を開いた。

「地方創生」は港湾振興に携わる我々が長年にわたって取り組んできた課題でもある。それぞれの地域特性を踏まえて、地方自らが創生総合戦略を打ち立て、地方が元気になる年にしたい—そんな思いで年明けを迎えている。皆さん、それぞれの地域の発展のため、港湾が大きな力を発揮できるよう奮闘をお願いします。改めてよろしくお願いします。

●八戸LNGターミナルに外港LNG船が初入港

(東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所)

平成27年1月8日、JX日鉱日石エネルギー株式会社が平成23年4月より八戸港ポートアイランド地区に建設を進めてきた東北最大のLNGターミナルにおいて、平成27年4月の本格操業開始に向けた総合試運転を行うため、大型の外港LNG船が初入港しました。

今回入港したLNG船は総トン数9万4千トン、全長約280mで、これまで八戸港に入港した船舶のなかで過去最大の大きさであり、本格操業以降は、全長315m、総トン数14～15万トンのLNG船の入港が予定されているほか、オーストラリアなど各国からLNGを輸入し、年間80万トンの供給を目標としています。

LNGターミナルの本格操業開始後は、釧路LNGターミナルや秋田LNG基地へ内航船での二次輸送や東北一帯への陸上輸送、八戸市内へガス管での供給が予定されていることから、八戸港のエネルギー供給拠点の役割がますます高まるものと期待されています。

八戸港湾・空港整備事務所としても、大型LNG船など船舶が安全に入港できるための信頼性の高い港湾機能を確保すべく、防波堤の整備や航路・泊地の整備を引き続き推進し、地域の期待に応えて参ります。



船の明かりと-162℃の炎が照らす八戸港

● 「にいがた^{みなと}港総選挙」が実施されました

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

11月中旬の新潟で総選挙が実施されました。その名も「にいがた港総選挙」。2019年の新潟港開港150周年に向けての機運醸成や、何となく見慣れた港の風景を”ちゃんと見つめてみよう”というコンセプトで、新潟西港で女性による港振興活動を行っている「NPO法人 にいがた湊あねさま倶楽部」が主催しました。これぞ新潟港という風景、港や港周辺で働くプロ厳選の風景20景がエントリーされ、投票により人気ランキングを競うイベントです。

当事務所は、「守られている港」と題し、大型浚渫兼油回収船「白山」などの浚渫作業風景をエントリーしました。民法テレビ局でも取り上げられ、「白山」の映像や当事務所推薦人のインタビューの様子が放映されました。



民放テレビ局 放送の一場面



新潟西港内を浚渫中の「白山」

11月16日から12月31日までの投票期間中、投票用紙を兼ねた同選挙チラシが、新潟市内の行政機関や商業施設に配付された他、動画を見た後に投票が行える専用ホームページが開設され、一人一票の投票権が与えられました。1月30日には、新潟市内のレストランにおいて「にいがた港総選挙結果発表会」が行われる予定で、記念すべき第1回にいがた港の人気NO. 1の風景が決定します。

(にいがた港総選挙) <http://niigata-minato-sousenkyo.com/>

●職場体験学習を受け入れ～千葉市立生浜中学校の生徒が来所～

(関東地方整備局 千葉港湾事務所)

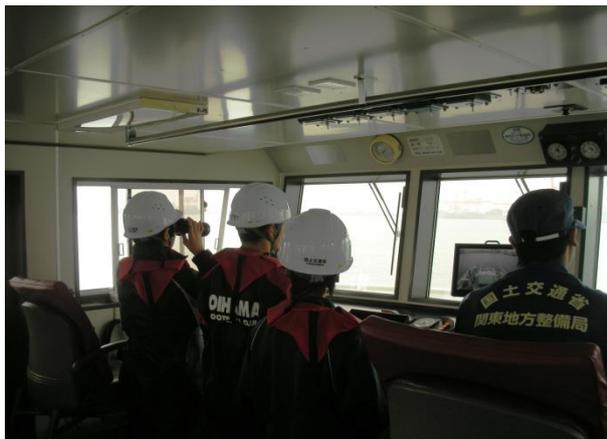
平成26年11月12日(水)～13日(木)にかけて、千葉市立生浜中学校の2年生3名が職場体験学習のために千葉港湾事務所を訪れました。これは、中学校の教育の一環として行われているもので、千葉市内の企業などを訪問し、実際に業務に触れながら、社会人になって働く大切さを学ぶものです。

12日はオリエンテーションの後、国土交通省や当事務所の業務概要を説明し、午後は「べいくりん」に乗船し東京湾でのゴミ回収を体験しました。

13日は午前中、工事監督業務を体験し、午後からは請負者を交えての業務打ち合わせや工事状況報告に同席しました。

訪れた中学生からは「仕事の難しさを学んだので、将来に活かしたい。」「仕事がたくさんある中、検査などを一つ一つ細かくやっている事が分かった。」などの感想とともに、「楽しかった。」との声も聞こえました。

この体験学習は継続的に行われているもので、当事務所では初めての試みでしたが、今後も可能な限り積極的に受け入れていきます。



「べいくりん」によるゴミ回収体験



工事監督業務体験



工事状況報告体験

